



精神科認定看護師としての教育活動を紹介します①

医療法人和光会一本松すずかけ病院（福岡県田川市）精神科認定看護師

坂本建太 さかもと けんた

多職種が参加する公開事例検討会の取り組み

私は患者さんや家族の苦しみを少しでも軽減したいという思いで、精神科認定看護師の資格を取得し4年が経過した。取得当時は精神科認定看護師は院内に1人であり個別で対応することが主になっていた。昨年より、専門・認定看護師が増え、リソースナース会が発足し、新たな活動として、看護の質の向上を目的に、院内での公開事例検討会を開催することとなった。会には、担当医師や受け持ち看護師、病棟スタッフ、外来部門、在宅診療部、リハビリ科、地域医療連携室などの部署から、元受け持ち看護師や、患者さんのことをまったく知らないスタッフが30～40名参加している。

公開事例検討会は2020年から現在まで4回行い、参加者からは「患者さんの元気なころの話聞き、看護の視野が広がった」「自分たちの看護が間違っていなかったと実感でき自信となった」「チームで支える思いが患者に伝わるのが大切と感じた」などの意見が聞かれた。第4回目は透析中に自己抜針する対応困難な患者さんに、看護介入の糸口を見出すこともできた。病棟の事例検討会だけではケアの行き詰まりが生じ、病棟集団も疲弊してしまうこともあったが、病院全体で事例展開することで、

ケアをより広い視野で多角的、俯瞰的にとらえることができる。また、多職種の存在もチームで1つの問題を解決しようと、ケアの時間を共有することにもつながった。公開事例検討会では、垣根を越えたメンバーで患者さんのことを考え「いまできる最善の看護」を検討することができている。さらに、参加したスタッフや、特に事例提供したスタッフは、最初は緊張感があったようだが、会のなかで安心感を抱き、集団のなかで癒されたり内省する経験もできている。この公開事例検討会をとおして、精神科認定看護師としてどのように活動していけるかを考えることにもつながったので、今回の経験を生かして多職種と連携をはかり、患者さんを一緒に支援していきたい。

精神科認定看護師としての課題は多々あるが、まずはスタッフに看護の「楽しさ」を感じてもらいたいと思う。そして、院内の活動から精神科認定看護師の取り組みをもっと知ってもらい、スタッフの目標や希望となれるように、日々自己研鑽し、近い将来、近隣の病院や施設スタッフと連携し病院の垣根を越えて、地域で困っている人の力になれるように支援していきたい。